

## 事例4 社会へのパスポート 「力」

# 大学や社会で必要な 思考力・表現力を育てる

2011年、ベネッセコーポレーションは大学生向け教材『大学生基礎力BOOKシリーズ』を発刊する。大学での学びに必要な基礎力、そして社会が求める人材要件を踏まえ、この教材でどう育成支援をしようとしているのか。教材の概要と共に紹介する。

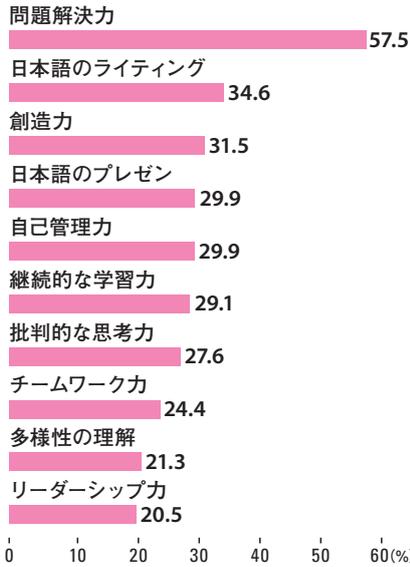
### 大学と企業の双方が ギャップを抱えている

「社会人基礎力」「学士力」「就業力」など、社会が学生に求める力に関する議論が活発だ。そして、大学は学生の育成に、企業は採用活動に

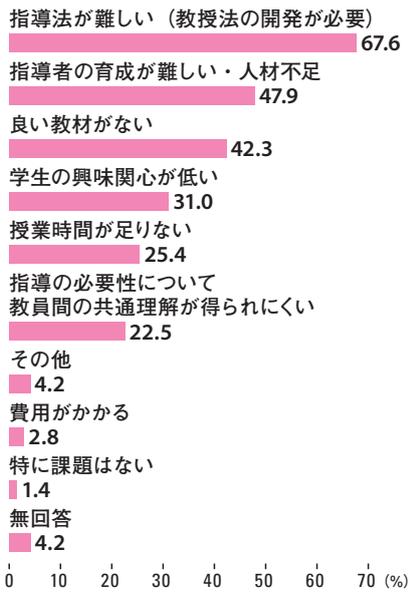
工夫を凝らす努力を続けている。だが、当事者である学生の置かれた状況を冷静に見つめることも重要だろう。社会の変化を受けて、経験の浅い社員でも任される仕事は複雑で高度になった。しかし求められる能力が変わったことに、大学教育も人材要件を提示する企業も十分な対応が

出来ていないのが現状ではないか。企業で求められる力と大学教育とのこうしたギャップを解消するため、ベネッセコーポレーションでは就業力を課題解決力と定義し、大学人が必要と認識しつつも指導法が難しいとする能力を育成する教材の開発を行った。

#### データ 1 今後特に重視して育成していきたいスキル・能力



#### データ 2 問題解決力の指導を実施する場合の課題



※出典／Benesse 教育研究開発センター「大学生の能力育成に関する調査報告書—学部長を対象に」（2009年1月）

#### ベネッセコーポレーション担当者より

### 正解のない学びへの 対応力を高める教材

大学事業部 松本 隆

学生の就業力養成や進路保障は大学にとって責務の一つとなりました。既に多くの大学で職業観育成の取り組みが行われていますが、課題解決力など汎用的能力と呼ばれるスキルの育成も行ってこそ、本当のキャリア教育と言えるのではないのでしょうか。

ベネッセでは大学生向けに課題解決力を育成する自学自習テキストを開発しました。大学や社会での「正解のない学び」に対応するものであり、日本の教育プログラムを見直す契機になればとの強い思いから始めました。今後、社会が求める人材育成のための教育プログラムを開発していきます。

## 課題解決力育成のための教材『大学生基礎力BOOKシリーズ』の概要

活用場面

- ・専門教育に入る前の導入教育や入学前教育のなかで考え方の観点を広げる
- ・体験型演習やグループワークの前後で思考力、討議力、発信力を強くする
- ・論理構成力、客観的な視点を身に付け、就職活動にも社会のなかでも必要となる力を築く

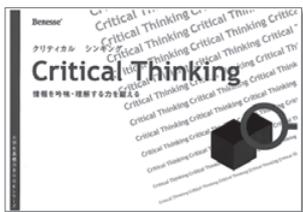
教材構成

テキスト（B5版横・全64ページ程度）、提出課題、総評（提出課題のフィードバック冊子）

所要時間

5時間程度（教材のみ自学自習として取り組む場合）

### クリティカル シンキング



- ◎目的 読んだり聞いたりするときに、情報をうのみにすることなく、多角的に吟味する視点を身に付ける
- ◎学習内容 情報を吟味するための基本的な3つの視点（議論の正確な理解・隠れた前提の理解・根拠の確かさの判断）を学ぶ

#### テキストの構成と学習の進め方

政治・経済・娯楽・買物など、あなたの身の回りでは日やいろいろな事が起きていることでしょう。「誰に投票すべきか」「どの大学に行くべきか」「どうしたら健康を維持できるか」「A・Bどちらを買うべきか」……、このような「問題」に対して「議論」を持って「主張」することを「議論」と言います。その議論には、発信者が明かしていない隠れた考えが潜んでいることもあります。

この「議論」をもっとシンプルに表現した基本形が、右のクリティカルシンキングのチャート（横して「クリシナチャート」と呼びます）です。これクリシンの対象であり、批判的思考の3つのスキルはこのチャートに対応しています。

「クリティカルシンキング」では、この3つのスキルに対応した3章構成で学習が進みます。

各章の構成

- エクササイズ（議論）：まずエクササイズであなたのデカカラを確認し、解答解説の議論で振り返る。すべてこの形で進みます。
- 応用 自習編・学習編：「エクササイズ」議論」で学んだあとは、クリシナがあなたの日常生活や大学の学習でどう生かせるかを学びます。

### データベース シンキング



- ◎目的 課題解決に必要な客観的に情報を分析する視点を身に付ける
- ◎学習内容 課題解決につながる「状況整理→分析→判断」のステップとデータに基づく客観的な思考力、判断方法を学ぶ

#### データベースシンキングを知る

### データベースシンキングの3ステップをもう一度確認！

ツバサくんは事例はわかったか？ データベースシンキングはツバサくんの例に照らす、あらゆる課題に対して使えます。仮定や前提条件が揃えば、データベースシンキングの分析視点さえ持っていれば客観的な判断ができます。データベースシンキングの考え方をなおらしていきましょう！

**STEP 1 状況整理**

目的を確認する

- ◆ わかっている事実を洗い出す
- ◆ 目的に影響しているような要因候補を洗い出す

**STEP 2 「位置確認+3視点」で分析**

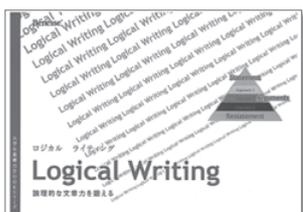
位置を確認する

- ◆ 比較する
- ◆ 関係を探る
- ◆ 傾向をつかむ

**STEP 3 判断**

分析結果をもとに判断をする

### ロジカル ライティング



- ◎目的 論理的に思考し文章にまとめるスキルを身に付ける
- ◎学習内容 思考の流れと文章の型をもとに、「主張・意見」と「根拠」で構成される文章作成法を学ぶ

#### ロジカルライティングを知る

### ロジライチャートの「文章にする」をマスターする

ここでは、ロジライチャートのSTEP4を詳しく見ていく。整理した主張・意見と根拠を文章に組み立てるステップだ。「主張・意見→3つの根拠→定押し」で5段階の文章にする基本を覚えよう。

#### STEP 4 | ロジライティングをイメージして文章にする

START

主張・意見のかけり出した「3つの根拠」を定押ししよう

END

論理的な文章にするためのトライアングルチェック！

**1 前提確認** (STEP 1)

- 主張・意見：自分の主張・意見をまず明らかにする
- 主張・意見や立場をはっきり言っている
- 主張・意見はテーマ（問い）に答えている

**2 根拠確認** (STEP 2)

- 3つの根拠：3つの根拠で自分の主張・意見を支える
- 根拠は3つ挙げられている
- 異なるものから選んでいる
- (応用) 根拠には事実を書いている

**3 定押し確認** (STEP 4)

- 定押し：自分の主張・意見を最後にもう一度
- 構造的に主張・意見と一致する定押しをしている

## 教材監修者が語る「社会が求める力」

社会で求められる課題解決力の育成を目的とした

『大学生基礎力BOOKシリーズ』。それぞれの教材では具体的にどんなシーンで役立つ力を育てようとしているのかを、教材監修者に聞いた。

### クリティカルシンキング

## 自分の頭で考え 判断する力が必要

情報をうのみにしない態度が  
社会では必要に

子安増生教授 京都大教育学研究科

情報の変化が激しい社会でさまざまなことを選択し判断していくには、情報の内容の真偽とその情報が誰を利用するのかの両方を見抜く必要があります。特に「信頼できそうな情報源」に対しては油断してしまうことも多いものです。情報をすぐにうのみにせず、「それは本当だろうか」と、いったん留保して評価する態度が社会では必要です。大学時代に身に付けてほしい力です。

## 論理的に考えることが 自分の頭で考えることにつながる

楠見孝教授 京都大教育学研究科

さまざまな角度・視点で物事を考える。併せて、自分自身の思考に自己中心的な考

ではなく、確かなデータに基づいて問題を科学的に分析し、分析結果を根拠に判断したり、まわりを説得するスキルも、ビジネスなどの場では当然身に付けておくべき基本的なリテラシーです。データに基づいて問題を解決する思考力の必要性はより高まっているといえるでしょう。

### ロジカルライティング

## 海外でも通用する 主張する力が必要

あらゆる国の人々に対して

説得力のある主張をする技術を  
身に付けたい

大庭コテイさち子氏 コロンビア大教育者  
大学院卒。芸術学修士(M.A)教育学修士(Ed.M)

日米の違いはいろいろありますが、話の構造と主張法も大きな違いです。英語が堪能な日本人留学生やビジネスパーソンでも「言いたいことがうまく伝わらない」と悩むことがあります。それは、これらの違いを学習する機会がなかったためです。論理的に思考し、話をクリアにまとめるコツをつかめば、アメリカだけでなく、日本を含むあらゆる国の人々に対しても、説得力のある主張が出来るようになります。文章作成以外にも、プレゼンテーションや演説に活用可能な技術は、学生や生徒にぜひ身に付けてほしいスキルの一つです。

## 大学生が 実感する 「必要な力」

『大学生基礎力BOOKシリーズ』に実際に取り組んだ大学生に、教材から得た気づき、更に大学や社会で必要な力について語ってもらった

「クリティカルシンキング」に取り組んで  
たくさんの方の話を聞き、  
精査する力が高まる

大橋瑛子さん

横浜市立大国際総合科学部4年

私はさまざまな情報を吟味し、理解する「クリティカルシンキング」の教材に取り組みました。例えば、文章を読んで、その主張と根拠を探し出し、更に根拠に思い込みや偏見が含まれていないかを考察していく、といったものです。「研究者が書いた論文だから」、「マスコミが発表した記事だから」とうのみにするのはなく、批判的な視点を持って情報に向き合うことが大切なのだと思ひました。

また、自分の意見を俯瞰して組み立てることを意識するようになりました。これは、自信を持って自分を発信することにつながります。私は、これまでのアルバイトやインターンシップなどの経験をを通して、社会ではいろいろな人の意見を聞くことが大切だと感じています。しかし、無批判に意見を受け入れるのではなく、混乱するだけです。多様な意見を聞き、それを精査する力が必要で、そういう力がこの教材で高まるのではないかと感じました。

もし、大学に入学した直後に出会っていたら役に立ったと思います。授業の受け方やゼミでの討論の仕方を1年生のうち理解すれば、自分なりに問題意識や

## 大学人が語る「教材を通して身に付けさせたい力」

法政大デザイン工学部では、1年生の導入教育のツールとして『大学生基礎力BOOKシリーズ』の「ロジカルライティング」を活用予定だ。教材に取り組むことで学生たちにどのような力を身に付けてもらいたいのか、同学部教授会主任の田中豊教授に聞いた。

### ◎法政大デザイン工学部

## 大学でも社会でも必要な考える土台を築いてほしい

### 大学での学びの基礎となる論理的思考力を導入教育で養う

法政大デザイン工学部では、1年生に対して少人数で大学での学びとはどんなものかを指導する「導入ゼミナール」を実施している。ここでは各学科の専任の教員が指導に当たるが、高校を卒業したばかりの学生と接するなかで「最近の学生は、論理的な文章を書くのが苦手なようだ」と多くの教員が実感するようになった。

「レポート作成やプレゼンテーション、協同的な研究を重視する本学部では、自分の考えを論理的に伝える力は非常に重要です。これまでの大学教育ではそのような力を4年間の学びのなかで身に付けさせるというスタンスでした。また、教員の側に学生の論理的思考力を鍛えるノウハウがなかったのも事実です。発表の仕方や論文の書き方、図書館の使い方など、大学での学

### 学びの成果を振り返る教材としても活用できる

び方を広く学んでいく『導入ゼミナール』で、論理的な思考力とは何か、なぜ必要なのか、どうすれば身に付くのかを、専任教員との密接な交流のなかで学生に理解させたいという思いから、2011年度より『ロジカルライティング』をテキストとして採用することとしたのです（田中教授）

大学4年間の学びを価値あるものとするため、導入教育は特に重視しているという同学部の教育方針にマッチした教材であったわけだ。

「ロジカルライティング」で身に付けさせる論理的な思考力は、大学においてはもちろん、社会に出ても一層必要とされると田中教授は断言する。

「企業で説得力やインパクトのある企画書を作成しプレゼンテーションを行うため

には、論理的な思考力が不可欠です。特に、工学をベースにほかの学問分野と融合しながら新しい価値を創造していくために、論理的思考力は大学時代にしっかりと伸ばしておくべき力だと認識しています」（田中教授）

「ロジカルライティング」は大学4年間の教育効果を上げるだけでなく、専門教育に入る前や就職活動の節目に自分の伸びた部分、足りない部分を振り返るツールとしても利用できるだろうと、田中教授は同学部における教材活用の可能性を語る。

「入口部分の教育の充実はもちろん、出口に至るまでに、学生本人が自分の成長を確認する場を設けることも、大学に求められていますし、その機能もこの教材は持っている」と期待しています（田中教授）

ものづくりのなかでも、「デザイン」は日本が世界をリードしている分野であると田中教授は語る。国際的な競争が激しくなるなかで、日本のものづくりをリードする人材を育てるために、論理的な思考力を身に付けさせたい……同学部は広い視野で教育の充実に取り組んでいるのだ。



法政大  
デザイン工学部教授  
田中 豊  
Tanaka Yutaka

疑問を持って学問に取り組むことが出来ます。4年間の学びもきっと大きく変わったものになると思います。

### 「データベーストシンキング」に取り組んでデータに基づいたアウトプットは他者と協同するためのベースとなる

武田昂来さん  
慶應義塾大経済学部2年

私は事実を基に思考する「データベーストシンキング」の教材に取り組みました。この教材の趣旨は、直感的な意見にデータを加えることで初めて相手の理解を得られるということだと思います。

大学でも「データに基づかない分析は意味がない」と学んでいます。グループで発表するときもそれは強く意識しています。裏付けとなるデータを集め、それを見る人に的確に伝わる形で表現することが出来ない、発表でも厳しく指摘されることになりましたから。

大学で学んでいて感じるのは、どうすれば説得力を持って相手に伝えられるかというアウトプットの難しさです。考えてみれば、高校までの学習でインプットには慣れていますが、アウトプットを学ぶのは大学からです。私の周りでもインプットは得意な人が多いのですが、アウトプットが得意な人は少ないです。

データに基づいて考えることは、大学での研究はもちろん、将来仕事に取り組む際にも、学生が修得しておくべき土台だと思えます。その土台がないと、価値観の違う人たちが集まって協同し、一つのテーマを突き詰めることは出来ません。社会に出たときに、チームの一員として自分の考えをアウトプットする力が、この教材で養えると思います。

\*当教材は大学生向けに制作しています。高校生への販売は現在、計画していませんのでご了承ください。